

Windomの解答速報 埼玉医科(後) 化学

1

問 1	(1)	01	①, ⑦
		02	②, ⑤, ⑥
問 2	(1)	03	①, ③, ④
	(2)	04	②
		05	⑤
		06	①
		07	④
問 3	(1)	08	⑨
		09	④
		10	⑥
		11	③
		12	⑧
		13	⑤
		14	②
	(2)	15	⑩
		16	⑨
問 4	(1)	17	②, ③
	(2)	18	②

2

問 1		19	②
問 2		20	④
		21	③
問 3		22	⑦
問 4	(1)	23	⑧
	(2)	24	③
問 5		25	③

3

問 1		26	②, ④, ⑤
問 2		27	①
		28	⑩
問 3	(1) (A)	29	④
		30	⑧
		31	⑥
		32	⑥
	(B)	33	⑨
		34	⑦
		35	②
		36	⑥
	(2)	37	②
		38	⑤

講評

理科 2 科目で 90 分，マーク式。大問 3 題。

- 酸化物の分類，ケイ素の単体と化合物，ソルベー法，2 段階の中和滴定，銅の電解精錬，硫酸銅(II)五水和物の脱水という，マーク総数 18 の小問集合。確実に得点したいところ。
- 電気伝導度の数値を用いて中和滴定を考える小問 5 題。条件を素早く理解して展開していく力が必要。問 5 のグラフの問題は難しい。問 4 の混合水溶液は緩衝液になっているが，中和点以降は水溶液の量が増すため，電気伝導度が下がっていくことに気が付くか。
- 糖について。フィッシャー投影法に慣れていれば，さほど時間はかからなかったであろう。最後のメトキシ化の計算も，医学部としては頻出。アミロペクチンでは 1 : 1 : 23，グリコーゲンでは 1 : 1 : 6.8 になるので，答はそれぞれ② 4.0%，⑤ 10%(計算では 11%)となる。

②, ③は，平均的な受験生にとっては時間がかかるので，必要得点は，前期に比べて下がると思われる。